

Title	類型別、ベンチャー・ビジネスの成長戦略に関する考察
Sub Title	
Author	久保田芳文(Kubota, Yoshifumi) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第409号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0409

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 久保田 芳 文

主査 小 野 桂之介

副査 古 川 公 成

所属ゼミナール 古 川 公 成 研

滝 沢 茂

類型別、ベンチャー・ビジネスの成長戦略に関する考察

この研究の目的は、第一に「ベンチャー・ビジネス」を、その性格の違いによって類型化すること、そして第二に、その類型によって成長要因が異なるという作業仮説を企業訪問（15社）と二次データの分析を通じて確かめることにある。

ベンチャー企業が事業の対象とするのは、既存市場なのか、既存市場の周辺市場なのか、あるいはまた新市場なのか、という3つの区分を横軸にとり、他方では、ベンチャー企業が活用する産業技術（ソフトウェアもハードウェアも含めた技術）が既存の技術なのか、既存の技術の新たな応用なのか、あるいはまた、画期的な新技術なのか、という3つの区分を縦軸に設けたマトリックスを描き、ベンチャー企業を9つのタイプに分類した。

類型の違いによる成長要因の違いを確認するために、9つの類型の中から第7区分（既存技術・新市場）に属する企業群と第9区分（新技術・新市場）に属する企業群を選び、この二つのグループで成長要因が微妙に異なることを確認した。

即ち、何れも「ベンチャー・ビジネス」は企業として発足して間がなく、新しい技術が派生して、それが一つの産業として発展して行く過程の中での初期の段階（アバナシーの提唱した「ドミナント・デザイン」が確立されるまでの段階、分析対象の企業群では第9区分に属する企業が置かれている段階）では、製品・サービス面の機能が競合他社より優れ、併せてコスト競争力がある企業が存続し、ドミナント・デザインが確立された後の段階、（第7区分の企業が置かれている段階）では、コスト競争力を持ち、併せて改良製品をあいついで開発する企業が成長し続ける。